

NJ 素流協 News

令和8年5月10日 第256号

令和8年5月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

ノースジャパン素材流通協同組合 令和7年度第2回林業講演会 新たな木材利用促進制度の直近の動き ～ウッドチェンジ加速化！～ 後編

NJ素流協は3月18日、令和7年度第2回林業講演会「新たな木材利用促進制度の直近の動き～ウッドチェンジ加速化！～」を盛岡市で開催しました。先月号に引き続き、後編意見交換の部の内容をお伝えします。

【司会】

NJ素流協 理事長

鈴木 信哉

【パネリスト】

林野庁 林政部 木材産業課 上席木材専門官

鈴木 清史氏

株式会社イトーキ 商品開発本部
 プロダクト開発統括部 第2商品企画部

小島 勇氏



NJ素流協 鈴木信哉理事長

NJ素流協 鈴木理事長(以下 理事長) まず、鈴木さんに確認事項です。温室効果ガス排出量から、木材利用による炭素貯蔵量を差し引いて報告できることについて、報告に使える材は「国産材」で間違いないですか。

SHK制度でもその部分を明確に宣伝したほうが良いと思います。そうすると森林・林業県には響くと思います。

鈴木 貴重なご指摘ありがとうございます。担当とも相談して、より分かりやすい資料を検討したいと思えます。

理事長 分かりました。あともう1点、建築物木材利用促進協定の締結数や、「森の国・木の街づくり宣言」への参加事例数について、県別のばらつきが大きいと感じます。少ない県には呼びかけたりしませんか？

鈴木 毎年5月頃に林野庁主催で各都道府県の木材担当課長を集めて行う会議があります。そういった場で都道府県別に数値の「見える化」をして取組を促していければと思います。

林野庁 鈴木清史氏(以下 鈴木) はい、そのとおりです。理事長 では、大量にCO2を排出している企業は、国産材を使わないと差し引きできないですね。

理事長 では次に、イトーキの小島さんに伺います。公開しているオフィスの来場者が毎年約2万人とのことでしたが、やはり来場者から製品の注文が入ることもある

のでしょうか。

株式会社イトーキ 小島勇氏（以下

小島） はい、見ていただい

て、「これと同じようにしたい」と注文があります。講演でお話しした大型テーブルも、見ていただいたうえで同じものが欲しいと注文があります。

理事長 見られる場所は、東京本社だけでなく他の場所でもありませんか。

小島 実は仙台オフィスも昨年改装して、見学できるようになっています。大型のオフィスは日本橋ですが、私が勤務している開発統括部のような200人程度のオフィスも見られるようになってい

ます。大阪、名古屋、福島、広島でも見られます。ITOKI DESIGN HOUSE（イトーキデザインハウス）と名付け、働き方や家具を見ていただけるような施設になっています。詳細はホームページに掲載されています。ぜひお越しください。

理事長 はい、分かりました。あともう1点、講演で、岩手県産ク

リの製品の話がありました。クリ以外の樹種でも、外材を国産材に変える企画はありますか。

小島 今年の開発項目はオープンにできませんが、家具業界では、ホワイトオークとウォルナットが王道です。ホワイトオークはナラ

なので代替できますが、王道のブラックウォルナットで今まで捨てられがちだった白太の部分がヨーロッパを中心に使われるようになってきました。ヨーロッパでトレン

ドになるといずれ日本にもやってくるので、今、岩手県産のオニグルミに注目しています。オニグルミは昨年来トライで作ってみて、いい感じだなと思っています。

理事長 今、海外産の広葉樹の代替として人気がある樹種が、ナラ、クリ、オニグルミ、ヤマザクラです。国産材に変えるニーズがあれば、出材も増えると思うので、ぜひ活用していただければと思います。次に、鈴木さん、講演の中で、

地方銀行の木材利用促進協定締結事例の表がありました。西日本

に偏っている気がして：県庁にこうした情報をオープンにすると、力を入れねばと認識してくれるかなと思ったのですがどうでしょうか。

鈴木 ありがとうございます。資料がどこまでの範囲で配布されているのかすぐには分かりかねますが、木材利用課の協定担当は、地方銀行との協定をさらに他地域でも広げていきたいと考えています。



林野庁 鈴木清史氏

地方銀行は知名度だけでなく、個々の企業とのつながりもあるので、こうした銀行の機能を期待、意識しています。ご指摘の点は担当にも伝えたいと思います。

理事長 京都議定書が採択された

後、「日本の森を守る地方銀行有志の会」ができました。そうした集まりも活用して宣伝していただければと思います。

鈴木 地銀協会には、先月、本協定ではなく広葉樹活用を勧める観点でお邪魔する機会がありました。先方から、「地銀の中で国産木材を使っていこうという会が10年ほど前に立ち上がったが、残念ながら2〜3年で活動が停止してしまっ

た」と伺いました。とは言え、その後、世間全体で木材利用の機運が高まってきているので、地銀協会への働きかけは継続していきたいと考えています。

理事長 次に小島さん、材料の調達はどのようにしているのですか。

小島 様々なパターンがあります。クリのテーブルの場合は、岩手県森連の方から、秋田県の業者を紹介していただきました。椅子の場合は、製作過程にカリモク家具株式会社が関わっています。イトーキが独自に入手した情報は、こうした協力工場に開示して製作して

いるのが基本スタンスです。
理事長 自治体がらみで注文があり、県産材を使うよう指定があった場合はどうですか。

小島 地方自治体の庁舎建て直しの一例ですと、県産材をどういうルートで調達するか、どのくらいの立方(m³)数になるか、いつ頃必要になるかといった計画があるため、自治体の方からご紹介いただくことが最も多く、確実なパターンです。



株式会社イトーキ 小島勇氏

理事長 分かりました。やはり、「公共物件」が県産材にこだわる印象ですか。

小島 そうですね。民間では国産材かどうかにも気にしないところも

ありますが、本物が欲しいと言われた時、我々としては、カーボンストックの観点から「国産材でこのくらい炭素固定していますので」と言えるので、国産材を提案するようにしています。

理事長 国産材だと、炭素貯蔵量を差し引いて報告できたりラベルを貼れたりしますが、買い手側にとってはそれで評価が上がるのでしょうか。

小島 まだ始まったばかりの評価なので、1社でもやるところが増えて広まっていけば定着すると思います。オフィス家具業界では、当社を含めた2社はラベルの申請をしています。林野庁のホームページなどでこうした情報を公開してくれますし、大手ゼネコンもラベル申請をしているので、今後広まっていくと思うし、広げていきたいと思っています。

理事長 分かりました。次に鈴木さん、SHK制度の関係でCO₂大量排出企業による森林購入の動きはありますか。

鈴木 私が把握している範囲では、SHK制度ではなく、原料の安定調達の観点から、川中企業が森林を保有するケースは見受けられません。

理事長 やはり、排出量が大きいところがこの制度を活用すれば真面目に動くような気がします。もう1点、カーボンストックの観点に、建築物だけでなく、地中杭・家具・備品といった分野もカウントする動きはありますか。

鈴木 地盤の改良のために地中に打ち込まれる杭が、伐採した後に炭素を一定期間固定するいわゆるHWPのカウントに算定される動きは聞いていません。今回のSHK制度の資料の中でも、「報告するところが可能な建築物等」の中に「新築等により自ら所有する、木材を使った建築物等(家具等物品や杭丸太を含む)」とあるように、杭丸太が算定に入るようになりました。
理事長 ありがとうございます。その調子でどんどん追加していただけだと思います。次に、小島

さんに伺います。業界での、家具に針葉樹を使う動きはどうですか
小島 圧縮をかけて広葉樹並みの比重にするやり方があります。塗料業界でも、柔らかいスギ材の表面を堅くしたり、耐久性や腐敗の深度を抑える処理方法があります。我々もそれを活用することがありますが、素材感が大事なので適材適所で使っていただければと思っています。

理事長 分かりました。変形しているような木も人気ですが、素材を入れてくれる業者等に規格を出す際、「こんなものでもいいよ」とお話ししているのですか。

小島 そうですね。商品の提案をする際にも、このくらい個々の違いがありますと話しますし、そうした素材感で良いですよと言うお客様にも買っていただけです。カタログに掲載されていない節があったとしても、それで苦情が来たことは今まで無いです。お客様側からの理解はかなり進んでいると思います。

理事長 強い個性がある木でも、伐って用材にできればいいですね。ぜひうまくPRしていただければと思います。

小島 そうですね。利用者側である我々が伐り方をわかっていないといけないので、そうした社内教育はしています。



会場の様子

理事長 鈴木さん、「森の国・木の街」づくり宣言」の締め切りについて伺います。3月末と伺いました。

鈴木 「森の国・木の街」づくり宣言」は、3月以降も継続して、

宣言する方を受け付けることになりました。

理事長 その締め切り変更もぜひホームページ等で宣伝をお願いします。次に、小島さん、オフィス内装は設計事務所が担当すると思いますが、家具の発注もそうでしょうか。

小島 設計事務所主体の家具発注は少ないと思います。ただ、設計事務所を介した施主や、建物を建てるゼネコン側からのオーダー等パターンはいくつかあります。

理事長 外に見えている構造と、内装と、オフィス家具のバランスでトータルコーディネートする人はいないのかなと思っただけです。

小島 そういふ方もいます。設計と、全体の工程のマネジメント両方やる会社もありますし、建設や移転に係るまでの様々な業者をコントロールする会社もあります。

理事長 そういった連携がうまくいかないことが多いのかなと思っっていました。というのも、新築木造庁舎を見学しに行くと、ゴミ箱

だけプラスチックだったり、木造に対して違和感があるところも多いのです。

小島 そうですね。私も、見学してみても、ちぐはぐだなと思う建物があります。イトーキではどのように使ってどう見せたいかの空間デザインのレベル上げをしているので、いずれちぐはぐではないものが出来上がってくるかなと思います。

理事長 分かりました。では最後に、今後の国産材利用に向けた決意表明をお願いします。

鈴木 本日の話からは離れますが、林野庁では今、国産広葉樹の活用を増やしていくための広葉樹チップを立ち上げ、2月の終わりにシンポジウムを開催しました。そこで、「1年後に国産広葉樹の関係者を集めるプラットフォームを作ることを」をまさに決意表明したところです。針葉樹利用は、引き続き林野庁施策の本丸として取組んでいき、広葉樹も、使いたい企業が増えてきていますので、広葉樹施

策もしっかり進めていきたいと思っています。頑張ります!!

小島 会社として、国産材利用量を5年後までに3520㎡増やしますという木材利用促進協定を国と締結しています。あと5年後までにこの数値を達成します!!

理事長 今回のテーマであるウッドチェーン加速化に向けて、さらに川下の人達に働きかけをしていきたいと思えます。私も頑張ります!!



最後に、講師のお二人、理事長で「頑張ります!!」宣言!! 会場参加者も呼応して「頑張ります!!」

講師のお二人、ありがとうございました!!

トピックス

東北地区原木トラック 運送協議会 第10回定時総会開催

4月27日、盛岡市で、東北地区原木トラック運送協議会の第10回定時総会が開催され、N J素流協の鈴木信哉理事長を来賓に迎え、松田光治会長の挨拶の後、議事に入りました。



トラ協定時総会の様子

議案第1号（令和7年度事業報告書及び決算関係書類承認の件）

では、林野庁・東北森林管理局への要望活動・管理局職員との合同現地検討会の開催、視察研修、原木トラック補助金活用に関する情報提供・要望活動等を報告し、収支決算と併せて承認されました。

議案第2号（令和8年度事業計画及び収支予算決定の件）について、林野庁・東北森林管理局・林業関係団体への要望活動、原木運送事業の役割や重要性についての情報発信等の取り組み計画が予算案とともに承認されました。

**紙の手形・小切手
2027年3月末まで
に廃止へ**

政府方針により、2027年3月末までに紙の手形・小切手の交換が廃止されます。

一般社団法人 全国銀行協会はホームページで、「でんさい」等の電子記録債権やインターネットバンクキングによる振込等への切替え

を呼びかけています。

こうした電子的決済サービスは、取引金融機関への相談等で導入できます。

詳細は、全国銀行協会の特設サイトや、取引金融機関にお問い合わせください。

岩手県大船渡市林野火災 の被災木が森林土木工事で活躍! 利用推進の取り組みスタート

東北森林管理局は、岩手県大船渡市で発生した林野火災における被災木の利用推進のため、令和8年4月1日から、森林土木工事における被災木利用について、以下の取り組みを始めています。

1 対象範囲

当面は、青森県、岩手県及び宮城県内の森林管理(支)署が発注する治山工事及び林道工事(以下、「対象工事」)。

2 適用する工種

コンクリートを用いる治山ダム、

土留工、擁壁工等の木製残存型枠及び外力を考慮する必要のない工種

3 入札参加者への周知

対象工事の特記仕様書に「岩手県大船渡市林野火災による被災木の利用を推進する工事である」旨記載する。

4 被災木の利用証明

被災木が利用されたことの証明は、資材の製作所等が納品の際に発行する書類に、「岩手県大船渡市林野火災による被災木を利用した製品である」旨の記載があることを確認することをもって行う。

5 工事受注者の評価

対象工事において、被災木が利用された場合は、受注者に対し、工事成績評定の「創意工夫」項目において**加対象とする**。なお、被災木が利用されなかった場合でも、減点対象にはなりません。詳細は、東北森林管理局のホームページをご確認ください。

お知らせ

安全衛生に関する経費の補助があります！

株式会社森林環境リアライズは、林野庁補正予算に基づき、安全衛生装備・装置の導入と労働安全研修の実施について、支援の公募を開始しています。

【対象】

認定事業主・選定経営体等

【応募の条件】

- 作業安全規範チェックシート、環境負荷低減チェックシート提出
- 安全診断の受診
- 安全衛生方針・目標の提出

【補助内容】

- 事業費上限400万円
- 安全衛生に資する装備・装置の1製品(個)単価上限50万円未満
- 労働安全研修経費 定額補助100万円未満

なお、装備・装置の導入と、労働安全研修の実施はセット申し込

みで、どちらか一方のみの申し込みはできません。

補助金予算の上限に達すると応募が締め切られますので、お早めにお申し込みください。

詳しくは、株式会社森林環境リアライズのホームページをご覧ください。

(株)森林環境リアライズ
<https://www.f-realize.co.jp/>



注意

国有林WEB入札が今年度もスタートしました
 ↓ 入力確定を忘れずに!! ↓

NJ素流協では、今年度もホームページで国有林材の委託入札を行っています。入札にはログイン用IDが必要となりますので、入札を希望される方は営業企画部までご連絡下さい。

素流協ホームページからID発行依頼書をダウンロードすることもできます。

また、入札に参加する際は、入札単価を入力し、最後に「入力確定」ボタンをクリックしてください。「入力が入力が確定しました」のメッセージが出るのを必ずご確認ください。

必ず「入力確定」をクリック！



また、各署委託販売入札の物件写真撮影日が確認できるようにになりましたので虫害時期等は特に熟慮の上で入札いただくよう、よろしくお願いたします。

令和8年度地区別組合員会議を開催します

本年度の地区別組合員会議を別表のとおり開催します。詳細は、5月26日に開催するNJ素流協第23回通常総会終了後に通知予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

日時	市町村	会場
6月16日(火)	宮城県大崎市	鳴子公民館
6月19日(金)	岩手県久慈市	久慈市文化会館 十文字チキンアンバーホール
6月23日(火)	岩手県八幡平市	八幡平市立 大更コミュニティセンター
6月25日(木)	青森県七戸町	七戸町総合アリーナ
6月30日(火)	岩手県住田町	住田町農林会館
7月2日(木)	秋田県秋田市	秋田テルサ

ちよつと気になる木の話

立木を買う時のポイント
— 良い木だから高く買える? —

素材生産業では、自分の所有山林でない場合は、所有者と交渉して随意契約して購入するか、国公有林野では入札で落札購入するかである。私の提言した、民有林の立木公売制度も走り始めている。特別な例としては、伐採した後の売り上げから、伐採搬出経費を差し引いて事後精算するケースもある(もちろん、両者合意の上ですが)。よく聞く話では、「山主さんが昔丁寧に入れ(除伐・枝打ち・間伐)をして、見た目も絶対に品質の良い丸太が出るので、高いよ」である。本当に、絶対的に高く買うことで合意できるのだろうか？

こうした山の価値の特徴は、かつての化粧等級の高い4方無節、3方無節、隣接2方無節等の見え掛りの化粧柱や長押、鴨居等に使われていたA材というよりはS材である。かつては有名な山主であっても、自慢できる化粧材丸太にだけ山主刻印を打つのが通常だった。

現在、肝心なのが、このS材利用工場がどこにあり、こうしたS材丸太を扱う原木市場がどこなのか？今の単価はどの位なのか？を理解してから立木評価をしなくてはならない。逆に、S材利用工場が無くなってしまつと、価値が無くなってしまい、A材価格になるので、各々の地域でのS材利用工場を無くしてはならないのである。そうした意味では、S材の毎年の安定供給体制構築は必須である。

2番目は、樹高である。樹高が高ければ、末落ち率は小さく、歩留まりが良く、出材丸太の本数・材積が全く違うことになる。一般的に平地林は伸びがなく、谷沿いの傾斜地林分は樹高が高い。太陽の光を求めて上方成長するからである。また、芯の位置も真ん中で、製材の木取りも効率的となる。よく公有林で航空データでの材積が大幅に異なっている例もあるが、樹高データの影響は大きい。自分の目で見る場合も、低標高地と高標高地の樹高の差を強く認識することが重要である。

3番目は残し木の存在である。人工造林した際に、隣の所有者の境界や風よけに保残帯を残したケースも多い。この樹齢は極めて高く、針葉樹だけでなく、広葉樹の大径材は価値が高い。これだけでも、伐採搬出経費がカバーできるケースも多々ある。100年超えの銘木となるかも。

加えて、人工造林した時期に開設した林道は谷より少し上の路線が多く存在する。

谷から林道までの間は手つかずで、コナラ、サワグルミ、ハンノキ等が存在している確率が高い。今単価が上がっているのに、忘れがちなが、チェックしておいたらバッチシである。

4番目は、最も重要な伐採搬出経費である。それには、高性能林業機械が使えるかどうかは、素材生産業者はプロフェッショナルなので問題はないが、案外と、土質が悪いと苦勞するケースも多いので土質のチェックも必要である。一番は、面積と材積が機械の運搬経費も含めて効率的であるかがポイントである。もし足りなければ、隣接所有者林分とセットにする工夫も必要である。隣接所有者と仲が悪いケースもあるが、立木所得が高くなるのであれば、「ウンウン、うちの山林もどうぞ」となるかなあ。路網集材に合わない場合は、架線集材の検討もである。その場所はかつて、人工造林前に架線集材した箇所かもしれない。

最後は、丸太のトラック運搬コストである。山元丸太価格の基本である。そのため、その林道の規格から何t車まで入れて、大きな道まで何kmあるのか？何百mあるのか？がポイントである。小さいトラックしか入れないのであれば、立木を買う時に、中出

しの中間土場設置場所の事前検討も重要である。

そして、北国の最大の問題である伐採時期問題である。良い品質の立木であれば、伐り旬は限定される。秋口から冬・春先までとなる。

しかし、手前の県道・市町村道が冬に除雪せず、通行止めになる場所もある。となると伐採可能時期は極めて限定的となる。

逆に、雪が降らないと出材できない林道なしの田んぼの脇山とかもある。このことを頭において、そもそも出材可能かどうかの判断も必要である。

理想は、国道、県道、市町村道脇で、除雪が毎日行われている真横の良い品質の山林である。これなら、伐り旬バッチシである。

色々述べたが、この周辺は伐った歴史、経験から良い丸太が生産されたか？高い評価を受けたのか？の情報把握も重要である。だから地元の素材生産業者に優位性があるかと信じている。

地元の人に「あいつはケチだ」と評判にならないことを祈ります(笑)。当組合の方針はA材くD材すべて活用であるが、良い山材は、SS材、S材、AくD材のすべて活用ベースに立木購入だ!!良い木の買

手の情報流が必須の時代に合わせてですね。

令和8年4月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	14,963	111.7	116.1	14,646	82.1	109.2	29,609	94.8	112.6
カラマツ	3,820	104.1	68.1	1,058	81.8	772.5	4,878	98.3	84.9
アカマツ	1,097	33.4	31.2	0	0.0	0.0	1,097	32.4	30.8
その他	90	104.4	*	382	126.2	119.1	472	121.4	147.2
合計	19,971	97.7	90.7	16,086	82.3	115.7	36,057	90.2	100.4

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	2,007	129.8	82.4
カラマツ	3,486	99.8	93.5
アカマツ	663	43.9	78.4
その他	760	78.2	73.4
合計	6,916	91.9	86.0

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	14,963	14,646	29,609	2,007
カラマツ	3,820	1,058	4,878	3,486
アカマツ	1,097	0	1,097	663
その他	90	382	472	760
合計	19,971	16,086	36,057	6,916
目標達成率 (%)	8.0	7.7	7.9	5.8
計画量	250,000	209,000	459,000	120,000

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和8年5月の需給動向】

- 5月は連休の影響もあり、生産稼働日数が減少するため、一部の工場では原木の使用量も制限される。
- 合板工場は中東情勢の影響を受け、接着剤等の原材料が入手難及びコスト高が心配される。
- 製材用(特に小径木)や燃料用、製紙用低質材などの原木は不足状況。

耳からウロコ

インバウンド急増で森の国、木の街

— 連鎖でチェーン話 —

日本への外国人観光客は急増で、日本の魅力があちこちで発信されている。冬には、スキー場が再び活性化して、スキー板、スノーボードを持った外国人でいっぱいである。長野駅とかは見渡す限りこの目的が分かる風景である。スキー場は森に囲まれた山ですよね。春になると桜(木の花)ですね。弘前城、角館桜並木もこれからのかな。角館は、「みちのくの小京都」で木造の武家屋敷が並んでいる。当然、本京都のインバウンド需要はすさまじい。木造の寺社仏閣は最大の魅力である。となると、他にも木が魅力の場所がオーバードンバウンドが起きているとすると、白川郷の茅葺屋根の街なみや山形県銀山温泉の木造温泉旅館の街なみとなる。

こうした中、日本の首都東京の中心街は銀

座である。何故か銀座は消えて銀座である。インバウンドでの日本の評価が高いのは、本場のお寿司である。海外の店とは全く違うと称賛されている。寿司は、森の国、木の街と関係あったっけ？寿司桶は木曾五木の一つのサワラである(ヒノキだと寿司米にヒノキの香りがついてしまう)。貝類の養殖は竹、丸太のいかだである。根本は、林業界で有名な宮城の漁業者の「海は森の恋人」でしょう。もう一つ、日本の食事で圧倒的人気なのは、コンビニで買える菓子パンである。意外だが、日本発祥で世界に無いのである。

銀座ネタに戻り、菓子パンの発祥は銀座の木村屋總本店である。アンコ餅の餅の代わりにパンにしたのが始まりとか。その後、いろんな店でジャムパン、クリームパン、カレーパンと種類が拡大していったようである。海外にも日本のコンビニが進出しているのに、商品が知られていないのは、作ってくれる製造業者がいらないのかなあ。インバウンドで評価が高まるなら今後の海外展開もあるかな。本場の寿司よりは可能性あるかな。

加えて、パンはポルトガル人が種子島に来た時にポルトガル語の「パオン」が定着したとのことである(カステラのカステイリヤと一緒に)。

アンパンマンが主役なのは、一番最初の菓子パンだったからかな。さすがに菓子パンは森や木と関係ないので、コンビニの木造化・木質化に期待!!